

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒が自信をもって社会に巣立つよう、「文武両道」の理念のもと、本校の校訓である「堅忍不拔」「好学叡知」「和衷協同」の実践を通して、生涯にわたり、「自ら学び続ける力」を育むとともに、高いコミュニケーション力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、リーダーシップを発揮して社会貢献できる生徒を育成する学校、地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

- ①第一志望の進路実現
- ②より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化の創出
- ③生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

## 2 中期的目標

## 1 第一志望の進路実現

- ・第一志望の進路実現へ向けて、文武両道を実践すべく、部活動の活性化をめざしながら、将来の夢や目標に向かって学習に取り組む姿勢を養う。
  - ・高い目標として関関同立の合格者数を100名以上に伸ばす。※平成28年度50名 平成29年度70名 平成30年度100名
- (1) 第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。
    - ・「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を養う授業を行う。
    - ・「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」(アクティブ・ラーニング 能動的学習)を実践した授業展開を行う。
    - ・オン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。また、ICTの活用など、様々な授業の工夫や互いの授業見学、公開授業などにより、生徒が『わかる授業』、『力をつける授業』を実践する。
    - ・授業アンケートを実施、分析し、組織的に授業力向上をめざす。※学校教育自己診断 「授業満足度」 H30年度80%以上をめざす。(H27年度67%)
    - ・進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施する。
  - (2) アクティブ専門コースの充実。
    - ・生徒の得意分野や興味・関心の深いエリアをさらに支援し、伸ばすことを目的としながら、自信や意欲を支える自尊感情や自己肯定感を高め、自己実現をめざす志を育み、学習面とは違った側面から学力の向上も図る。
    - ・何事にも積極的に取り組む姿勢を育むとともに、リーダーシップ力、忍耐力、集中力、協調性、社会性、奉仕の精神など、社会で必要とされる「生きる力」を育む。
  - (3) 三年間を見据えたキャリア教育計画等の充実により、生徒のキャリア意識の向上を図り、100%の第一志望の進路の実現をめざす。
    - ※平成28年度75% 平成29年度80% 平成30年度85%
    - ・最後まであきらめず頑張りぬく生徒を育てる。※大学入試センター試験 受験率を平成28年度から3年間で60%以上にする。(平成27年度40.1%)
    - ・将来について自ら考え、夢の実現に向けて自ら行動する生徒を育てる。
    - ・学力の客観的評価、学力生活実態調査等を継続的に使用し、その結果を分析し、進路指導等に生かす。
    - ・進路の情報提供の充実(進路コーナーの充実。HPへのアップ、提供機会の増加。)
    - ・漢検・英検等資格試験の受験者を増加させ、より難度の高い資格に挑戦させる。
  - (4) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。
    - ・授業外校内学習指導(仮称)の実施により、自律学習を支援し、学習意欲の向上、家庭学習の充実を図り、学力向上をめざす。
    - ・生徒の学習に対する初期指導として、入学当初に学習オリエンテーションを実施する。
    - ・学習と学校行事や部活動との両立を図る。
    - ・自習室や図書館の利用促進。 ※自習室利用 H30年度30%以上、図書館利用 毎年 前年比10%増

## 2 より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化の創出

- (1) HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等で生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ。
  - ・体育祭、文化祭、修学旅行、芸術鑑賞等の学校行事の継承と発展。
  - ※学校教育自己診断 「行事が生徒中心に組織的・効率的に運用」 H30年度90%以上
- (2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会、CM会議(部活動のキャプテン、マネージャー会議)、保健委員会、図書委員会等の活動の発展。
  - ・生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実、あいさつ運動の向上を図る。
  - ※学校教育自己診断 「生徒会活動が活発」 H30年度90%以上 (H27年度84%)
- (3) 規律ある学校生活を行うため、基本的生活習慣の定着や自転車や挨拶等マナーの向上。
  - ※学校教育自己診断 「基本的生活習慣の確立に力を入れている」 H30年度90%以上
- (4) 生徒のコミュニケーション力向上を図ることにより、より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化を創出する。
  - ・アクティブ・ラーニングや教育活動全般を通して、傾聴を中心とし、アサーティブなコミュニケーション力の向上を図る。
- (5) 海外からの生徒の受入れ等、グローバル人材の育成に向けた取組みの実施。
- (6) 保護者との連携をしながら、安全で安心な学校づくりを推進。(人権教育、就学支援、教育相談等)
  - ・※学校教育自己診断 「家庭とのきめ細かい意思疎通と相談について」 H30年度90%以上
- (7) 開かれた学校づくりにより保護者や地域との連携を密にし、さらなる生徒の育成を図る。
  - ・地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。
  - ・地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。

## 3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

- (1) ICTの活用等、仕事の効率化、危機管理対応等の充実をめざし、校内組織の見直しと体制づくり。
- (2) スクラップ・アンド・ビルド方式を基本に、必要に応じてプロジェクトチーム等の新設及び改廃を行い、円滑な組織運営を行う。
- (3) 香里会(新任を中心とした研修チーム)を活用した経験の少ない教員等の育成。
- (4) 校務処理システムの有効活用。
- (5) 教育環境等の整備、予算の効果的執行。
- (6) 広報活動の充実。
  - ・「香里PR隊」を結成し、文化広報部とともに中学校や地域住民に対する広報活動を充実させる。
  - ・ホームページ、香里丘メールサービス配信等で情報提供に努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一志望の進路実現のため生徒の学力向上・教員の授業力向上を重点目標に掲げた。アクティブラーニングや観点別評価に関する教員研修も実施し、生徒がより主体的に学ぶ授業づくりをめざした。生徒の授業内容についての肯定的な回答は昨年より7ポイント向上し74%であった。また「授業の工夫をしている先生が多い」という質問の肯定回答は5ポイント向上の72%であった。一方教員の「生徒の力をしっかり伸ばすことができている」の肯定回答は6ポイント減少の72%であり、授業力向上について一層の研鑽が求められる。</li> <li>・教員の「学習意欲の高い生徒に対する取り組みが全校的に行われている」が昨年同様62%の肯定率であった。「到達度の低い生徒に對</li> </ul>	<p><b>【第1回：6月30日開催】</b></p> <p>○平成28年学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試の変化に対応するアクティブ・ラーニングへの取組みを始められていることは素晴らしい。大学入試に直結する学習とアクティブ・ラーニングを両方実現させるのは難しいが、ぜひ達成してもらいたい。</li> <li>・若者の活字離れはどの学校も共通の問題だが、図書館の利用を促し、本を読む生徒が増えることを期待する。</li> <li>・生徒のキャリア意識の向上にむけて、大学見学会、分野別進路ガイダンス、出前授業、外部模試等さまざまな働きかけをされていることを知った。「第一志望の進路実現」のためにこれらの取り組みを是非継続されたい。</li> <li>・クラブや生徒会の活動を中心として地域との交流をさらに深められたい。地域としてもできるだけ協力していく。</li> </ul>

する指導」の肯定率が70%であることに比べ低い値となっている。全体のレベルアップのためにも学習意欲を喚起し、意欲の高い生徒に対するサポート体制の確立が急がれる。

#### 【生徒指導等】

- ・生徒の「基本的生活習慣の確立に力を入れている」「学校生活においてルールやマナーを守っている」の肯定回答はいずれも91%で、生徒は概ね学校の生徒指導方針を理解し守ろうとしている。また保護者の「学校の生徒指導の方針は納得できる」の肯定率も90%と高く、保護者の協力を得やすい状況であることが確認された。
- ・教育相談体制の充実を掲げているが、生徒の「悩みを相談できる先生がいる」の肯定回答は55%（昨年56%）にとどまっている。全教員がカウンセリングマインドを持って指導に当たることの重要性を改めて認識するとともに、組織的な生徒相談体制を推進しなければならない。

#### 【学校運営】

- ・危機管理対応として年間2回の防災避難訓練を計画していたが、予備日も含め悪天候のため実施できなかった。生徒アンケートでも「地震・火災・事件などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」の肯定回答が昨年の83%から78%に減少している。安全で安心な学校生活を過ごすためにも、避難訓練だけでなく他の機会をとらえての危機管理意識の醸成に努めることが課題である。
- ・教職員アンケートの「学校運営に教職員の意見が反映されている」が29ポイント向上した。これを契機に日常的な情報共有や自由な雰囲気での意見交換を通して、すべての教職員が学校運営に積極的に参画し、より良い学校づくりをめざす。

#### 【第2回：11月22日開催】

○本年度の新たな取り組みについて

- ・新入生学習オリエンテーションについて。実施直後の生徒の評価がかなり良い。今後も継続されたい。
- ・アクティブ・ラーニング等に関する教員研修を実施されたのはとても前向きな取り組みである。教師も生徒も主体性を持って授業に臨み、アクティブ・ラーニングを取り入れながら徐々に変えていくのがよい。
- ・学習塾対象の説明会を実施されたと聞くが、公立高校では珍しいことである。塾の先生に学校を知っていただくのは大事なことだ。続けていただきたい。
- ・生徒の知識欲を刺激する仕掛けとして設置された「まなびワンポイントコーナー」の発想は面白い。校内の随所に設置され、生徒がそれを見て話題になることを期待する。

○授業力向上の取り組みについて

- ・授業レベル設定のターゲットをどこに置くかで授業改善の仕方が変わってくる。コンセプトを明確にして授業改善にあたられたい。
- ・先生の声が大きいほうが生徒はよく聞いている。また、ICTを活用した授業では生徒は顔を上げてスクリーンを見ていたし、間が空かなくてよかった。

#### 【第3回：1月31日開催】

○平成28年度学校経営の評価及び平成29年度学校経営計画への提言

- ・本年度に成果を出した項目は次年度以降も継続して取り組み、より高い目標をめざしてほしい。特に相互授業見学は良い取り組み。今後も続けられたい。
- ・清掃や演奏活動など、香里丘高校の生徒が積極的に地域で活動しており、将来香里丘高校へ入学したいという生徒・児童が増えていくのではと思う。ぜひ続けてほしい。
- ・海外交流は、提携先にこだわることなく、幅広い活動を生徒に経験させグローバル人材を育成してほしい。
- ・どうしても教員は到達度の低い生徒の方に学習指導の焦点がいきがち。意欲のある生徒に対してもきちんと指導を施していくことが重要である。

## 府立香里丘高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 第一志望の進路実現	<p>(1) 第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。</p> <p>(2)アクティブ専門コースの充実。</p> <p>(3) 生徒のキャリア意識の向上を図る。</p> <p>(4) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。</p>	<p>(1)・授業研究を通じて、教員のアクティブ・ラーニングを実践した授業展開や授業での ICT の活用を促進し、教科内、校内 OJT を活性化させ、授業力向上を図る。また、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業、ICT を活用した授業づくりについて研究を深める。さらにそのための設備の充実を図る。(新設する学習指導支援 PT)</p> <p>・高大連携等を推進し、教育活動の充実、深化を図る。</p> <p>ア 教科内でチームとして授業力向上を図る。(①年間3回の研究授業・研究協議の実施②他校への授業見学及び研修会等への参加とその情報の共有化、③互見授業の活用等) 学び続ける生徒の育成を図る。</p> <p>イ 公開授業週間を6月と11月に実施、その時期を中心に、年間2回互見授業を行い、感想シートを授業担当者、首席に渡す。それを全体にフィードバックし、授業力向上につなぐ。</p> <p>ウ ベル始業の実施。</p> <p>エ 授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。</p> <p>オ 進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施し、学力の高い生徒から学習到達度の低い生徒に対し、学び続ける生徒の育成を図りながら、学力の定着をめざす。</p> <p>(2)アクティブ音楽コースの内容の充実を図るとともにアクティブスポーツコース等の準備を行う。</p> <p>(3)ア 三年間のキャリア教育計画と進路指導體制のさらなる充実。イ キャリア意識の向上を図る。(年2回の学力生活実態調査を活用し、担任の面談を通じて早期に進路目標を立てさせる。1・2年生の夏休みの課題で大学を2校見学、所定の報告書に将来の目標等を含めレポート提出、まとめてフィードバックする。中小企業家同友会等によるキャリア意識向上の取組) ウ 進路の情報提供の充実(進路コーナーの充実。HPへのアップ、情報提供機会の増加。)</p> <p>エ 模擬試験、漢字検定、英語検定等の受験を促進する。</p> <p>(4)ア 今年度より新たに Web 予備校の活用を導入し、自学自習の取組みの充実を図る。また、授業外校内学習指導を新たに立ち上げ自立学習の充実を図る。</p> <p>イ 入学当初に学習リエンションの実施と充実。</p> <p>ウ アクティブ専門コースを中心とする部活動による学習支援の充実。行事や部活動の終了時刻の徹底により、学習との切り替えを図る。</p> <p>エ 自習室の利用を推進する。 オ 図書館の利用を促進する。</p> <p>カ 授業以外の場面における生徒の学習意欲を喚起するような取組みや環境づくりについて検討し、実行できるものは実施する。</p>	<p>(1) 関関同立の合格者数を50名以上。(平成27年度47名)本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率85%以上。(平成27年度82%) 実施状況。</p> <p>ア 実施状況。 学校教育自己診断 授業力向上関連項目平均5%増。</p> <p>イ 互見授業の状況。授業改善に活用85%以上(平成27年度78%)</p> <p>ウ 徹底状況。</p> <p>エ 授業内容に、興味関心を持つことができた。授業を受けて、知識・技能が身についたと感じる。を重視し、授業アンケートでの肯定率平均80%以上。(平成27年度77.6%)</p> <p>オ 学校教育自己診断 講習70%以上(平成27年度62%) 補習75%以上(平成27年度70%)</p> <p>(2)アクティブ専門コースの次年度選択人数を各40名以上。アクティブスポーツコースの準備状況。</p> <p>(3) 生徒アンケートにより第一志望の進路実現75%以上。 ア 特に進路指導部と第3学年の連携強化。進路指導室の充実状況(常駐体制の確立、連携状況等)</p> <p>イ それぞれの取組状況。学校教育自己診断で進路に関わる項目の肯定率を平均5%向上。進路希望未定者、0%。(平成27年度0.3%)</p> <p>ウ 学校教育自己診断で進路情報提供項目肯定80%以上。(平成27年度74%)「授業参観や懇談の機会をよく設けている」の肯定回答を90%以上。(平成27年度80%)</p> <p>エ 模擬試験、漢字検定、英語検定志願者、昨年比5%以上増。</p> <p>(4) 家庭学習の充実。学校教育自己診断70%以上。 ア 実施状況。参加者20名以上。(新規)</p> <p>イ アンケートで肯定平均95%以上。(平成27年度94%)</p> <p>ウ 実施状況。</p> <p>エ 自習室の利用、昨年比5%増。</p> <p>オ 図書館の利用率、昨年比5%増。</p> <p>カ 学習意欲を高める取組みに広がりや深まりがあったか。</p>	<p>(1)・10月に「アクティブ・ラーニング及び観点別評価」についての授業力向上研修を、教育センターの首席指導主事を講師に招いて実施した。また、ICTを活用した授業づくりの推進に向けて、PTAの協力を得て、電子黒板機能付きプロジェクターを4台新たに導入することができた。次年度は、アクティブ・ラーニングを実践した授業展開の研究をより深めるとともに、ICTを活用した授業づくりを学校全体で推進したい。(○)</p> <p>・関関同立の合格者数は、各大学が合格者の数を例年よりも絞った影響もあり、31名で目標には届かなかった。また、本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率は、83%と目標には少し届かなかったものの、昨年度(H27:82%)を少し上回った。(△)</p> <p>ア・教科毎に各教科年間3回の研究授業・研究協議を目標通りに実施したり、大東市立谷川中学校の数学の「アクティブ・ラーニングに係る研究授業」に1名参加したりするとともに、互見授業を活用して授業力向上に取り組んだ。その結果、学校教育自己診断 授業力向上関連項目の平均(H27:70.3%→H28:75.7%)は5.7%増加し、目標を上回ることができた。次年度もさらにより良い授業が提供できるように、学校全体で授業力の向上に取り組むたい。(◎)</p> <p>イ・6・11月に実施した公開授業週間のときに各回各自2回ずつを目標に互見授業実施した。実施後、感想シートを授業担当者に渡し、授業力向上に役立てた。しかし、感想シートを提出した人数が昨年度(27名)より大幅に減少し(H28:9名)、授業改善に活用した率も75%と昨年度(78%)よりも若干減少し、目標には到達しなかった。次年度は互見授業がより有効なものとなるように実施方法等のさらなる改善を図りたい。(△)</p> <p>ウ・ベル始業をはじめ、生徒が態度よく集中して授業を受けることができるように授業規律の確立に取り組んだ結果、学校教育自己診断「授業に集中して取り組む」率が上昇した。(H27:81%→H28:83%) (○)</p> <p>エ・第1回の授業アンケートの結果をもとに全教員、全教科が課題の洗い出しや解決に向けて取り組むなど全体的に授業の自己点検及び改善に取り組んだ。2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケートでの肯定率は81.9%と目標を上回ることができた。次年度も授業アンケートの結果をより一層よく活用し、さらに授業改善に努めたい。(◎)</p> <p>オ・進学講習、授業の補習等を進路指導部、学年等が中心となって組織的、計画的に実施した。学校教育自己診断における教員の評価では、講習、補習ともに昨年度と同じ評価(講習62%,補習70%)で目標には届かなかったものの、「進路実現のための学習支援の充実」についての生徒の評価は少し上昇した(H27:83%→H28:84%)。次年度もさらにきめ細やかな指導に努めたい。(○)</p> <p>(2) アクティブ音楽コースでは、講師の派遣等で大学等と連携をし、充実した内容の授業を実施するとともに3年次の授業の具体的な内容を策定することができた。アクティブスポーツコースでは具体的な授業内容を確定し、コース選択についての生徒への説明をきっちりと実施できた。その結果、目標には届かなかったものの、音楽コースの2年次の選択者が若干増加(11名→14名)し、スポーツコースの選択者は31名となった。次年度は、選択した生徒の満足度が高まるように、内容の充実を努めたい。(○)</p> <p>(3) 生徒アンケートが実施できなかった。(△)</p> <p>ア・5月に担任交流会、8月に進路研修会を実施するとともに、進路指導室への3年担任2名の常駐、就職主担、面接担当の常駐と合わせて進路指導部と第3学年との連携の強化を図った。次年度は、さらにキャリア教育を充実し、1年時より生徒の進路意識を高める取組みの一層の充実を図りたい。(○)</p> <p>イ・年2回学力生活実態調査を実施し、担任の面談等で活用した。夏季休業中に1・2年生対象の大学見学会を実施した。熱心に参加を呼び掛けた結果、1年生の参加者が昨年度よりも約40名増加し(H27:368名→H28:410名)、そのレポートの作成状況も例年以上に良好であった。次年度は、生活実態調査分析会を担任全員参加で実施し、さらなる有効活用を図るとともに、早期に進路目標を持たせる取組みの一つとして、大学見学会を1年生では全員参加で実施し、2年生では希望者対象で実施するとともに、その内容の充実を図りたい。(◎)</p> <p>・進路指導にかかわる項目の肯定率の平均は80%で目標には届かなかったものの2%上昇した。また、進路希望未定者は0%で目標を達成した。(○)</p>

## 府立香里丘高等学校

1 第一志望の進路実現			<p>ウ・進路コーナーの充実、「進路だより」、進路説明会、講演会の実施など情報提供機会の増加に努めた。その結果、学校教育自己診断で進路情報提供項目の肯定率は目標の80%には届かなかったものの75% (H27:74%)と昨年度より1%上昇した。また、「授業参観や懇談の機会をよく設けている」の肯定率も目標の90%には届かなかったものの84% (H27:80%)と4%上昇した。次年度もさらに進路の情報提供の充実を図り、生徒のキャリア意識の向上に努めたい。(○)</p> <p>エ・模擬試験：1年311名、2年371名、3年756名が受験。1,2年は昨年度並みだが3年は大幅に増加した (H27:573名→H28:756名 30%増) (◎)</p> <p>漢字検定：93名受験 昨年度並み (○)</p> <p>英語検定：90名受験 昨年度より10%減 (△)</p> <p>次年度は、生徒が3年間を見通して、計画的な受験ができるように情報提供の充実を努めたい。</p> <p>(4) 学校教育自己診断において「家庭学習を十分行っている」とした回答は目標の70%には届かなかったものの、59% (H27:57%)と昨年度よりも2%上昇した。(○)</p> <p>ア・今年度4月より新たにWeb予備校の活用を導入したところ39名(1年12名、2年15名、3年12名)の参加があり、目標の20名を大きく上回った。放課後、夏季休業期間に校内学習会を6回実施するとともに、受講進度の遅い生徒には受講促進の指導を行った。次年度は、校内学習会の回数を増やすとともに、生徒が受講計画を立てやすいように情報提供に努め、自学自習の取組みの充実を図りたい。(◎)</p> <p>イ・4月に内容をさらに充実させて実施したところ、生徒にたいへん好評で、アンケートの肯定回答は99% (H27:94%)となり、目標を大幅に上回った。次年度もこの率が維持できるように、さらに内容の充実努めたい。(◎)</p> <p>ウ・部活動内で定期考査前に学習会を行うなど部活動と学習の両立に向けての取組みを行った。また、家庭学習時間の確保のために各部顧問の尽力により完全下校時間(19時)を遵守することができた。次年度は部活動と学習とが相互に良い影響を与えるように、両立に向けて取組みをさらに充実させたい。(○)</p> <p>エ・今年度は、夏期には空調の関係で自習室の半分を授業教室として使用したが、利用状況は昨年と同程度であった。もとに復元した秋以降は、ほぼ満席で多くの生徒が利用する姿が見られた。(○)</p> <p>オ・貸出冊数が昨年度の1061冊から953冊に減少し、来室人数も減少した(3134名)。次年度は、図書室からの情報発信を増やし、生徒の読書への関心の喚起に努めたい。(△)</p> <p>カ・5月から検討を始め、10月に生徒の学習意欲喚起の一環として、各教科の重要事項や興味深い話題を掲示する「学びワンポイントコーナー」を校内6か所に新たに設けた。生徒の反応も良く、たいへん好評で、次年度は、さらに内容の充実を図っていききたい。また、1年生に対して「隙間時間の学習への有効活用」についての指導も新たに行った。次年度もこの取組みを継続して実施したい。(◎)</p>
----------------	--	--	---

## 府立香里丘高等学校

<p>2 より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化の創出</p>	<p>(1) 生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ。</p> <p>(2) 生徒会活動の充実。</p> <p>(3) 規律ある学校生活。</p> <p>(4) 生徒のコミュニケーション力向上を図ることにより、より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>(5) グローバル人材の育成。</p> <p>(6) 安全で安心な学校づくりの推進。</p> <p>(7) 地域連携によりさらなる生徒の育成を図る。</p>	<p>(1) ア 生徒の自主性を尊重。香里を考える HR の充実。 イ 体育祭・文化祭の生徒の達成感をさらに向上する。 ウ 生徒会活動の充実。中学生対象の授業・部活動体験での発表。新入生歓迎行事の充実。など エ 新入生に対し、部活動入部を強く勧める。クラブ員による出身中学校訪問を組織的に実施する。中学校との合同練習。地域への貢献。</p> <p>(2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会活動の充実。生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実、挨拶の向上を図る。 ア CM 会議、クラブ総会の充実。 イ 保健委員会の活動の充実。 ウ 図書委員会の活性化。 エ 生徒総会の運営。書損じハキやクリーンキャンペーン（年 2 回）等の取組みの継続実施。</p> <p>(3) 基本的な生活習慣の定着、自転車や挨拶等マナーの向上。 ア 遅刻者数の減少。 イ 挨拶マナーの向上のため、教職員からも挨拶の徹底・声かけの実施。 ウ 清掃の徹底。</p> <p>(4) ア NPO 法人や大学等の学識経験者の協力を得るなどして、コミュニケーションに関する生徒や教職員の研修を実施し、理解を深めると共に人間関係づくりの一つの手法として定着を図る。また生徒や教職員のコミュニケーション力（指導力）の向上を図ると共にいじめやトラブルを起こさない、見逃さない生徒を育成する。 イ 食堂の多目的化により、生徒の交流場所を提供し、コミュニケーション力向上や人間関係づくりに活用する。 (5) ア 海外の生徒等との交流を計画的に行う。</p> <p>(6) ア 安全で安心な学校づくりを推進するため、保護者との連携に留意する。 イ PTA と共催で、人権研修の実施と充実。 ウ 障がい等の事情により、学校生活を送るにあたって困難を伴う生徒について、就学支援委員会で生徒支援カード等により収集した情報を共有し、個別の支援計画など、保護者と連携しながら作成、充実した指導をめざす。 エ 教育相談体制等をさらに充実。スクールカウンセラーと学年との連携を深める。生徒への声掛けをより充実させる。 (7) ア 地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援することにより、地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」の開催数を増やす。 ウ 地域の学校や団体との連携・交流の充実。</p>	<p>(1) ア 生徒からの学校生活改善等提言内容によって評価する。 イ 満足度 90%以上を維持。（平成 27 年度 91%） ウ 生徒会関係行事の充実状況。 エ 部活動加入率 1 年生 85%以上。（平成 27 年度 81%） 出身中学校訪問 3 部以上。中学校との合同練習 10 回以上。 (2) ア CM 会議年間 25 回以上。クラブ総会の年 3 回の継続と内容の充実。 イ 保健委員会による、学校保健委員会での活動報告。エコクラブ活動の協力。 ウ 図書委員会、年 5 回以上。活動状況。 エ 生徒会活動の活性化。学校教育自己診断肯定率 85%以上。（平成 27 年度 84%）挨拶運動の実施。 (3) ア 遅刻者数の 5%減（平成 27 年度 688 名） イ 毎日登校時の自転車指導や挨拶運動の実施。日常の教職員からの挨拶を含む声かけの実施。 ウ 校内美化についての学校教育自己診断の肯定率 83%以上（平成 27 年度 81%） (4) ア コミュニケーションに関する生徒や教職員の研修を各 1 回実施する。生徒や教職員の日頃の傾聴力の向上を検証。 イ 食堂の多目的化の完成。多目的エリアとして食堂の活用を促進する。（活用実績にて測定） (5) ア 海外生徒等との交流を 2 回以上実施。 (6) ア PTA 実行委員会等での推進状況。PTA による登校指導を 6 回以上実施。 イ 人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 80%以上。（平成 27 年度 76%） ウ 委員会を年 6 回以上の開催し、全体で情報を共有し生徒の支援をする。 エ 学校教育自己診断（悩み相談）60%以上。（平成 27 年度 56%） (7) ア 地域イベントへの参加状況。 イ 「香里カップ」「香里フェス」を合わせて 5 部以上の実施。 ウ 連携・交流の状況。</p>	<p>(1) ア・11 月に「香里を考える HR」を実施した。生徒から積極的に多くの前向きな提言が出され、すぐに実現可能なものは実現に努めた。学校教育自己診断で 82%の生徒が「HR 活動が活発」だと回答した。本校の特色の一つでもあるので、次年度も引き続き充実に努めたい。（○） イ・前年度の総括をもとに、さらに充実したものになるように取り組んだ結果、生徒の満足度 91%で目標を達成することができた。（○） ウ・生徒会活動は前・後期を通して、積極的によく活動できた。やりがいを感じて、2 期連続して役員に立候補する生徒も増えた。中学生対象の授業・部活動体験での発表や新入生歓迎行事の充実にも努めただけでなく、今年度新たに校門前の花壇の改修並びに管理にも取り組んだ。また、「熊本大震災の募金活動」を企画、実施するなど、積極的に活動した。次年度もさらに充実した活動となるように指導に努めたい。（◎） エ・1 年生の部活動加入率は 85%で目標を達成できた。出身中学校訪問を 7 部で実施するとともに、中学校との合同練習も 16 回実施し、目標を大幅に上回った。次年度は入学時の部活動勧誘の取組みをより充実させ、部活動への参加をさらに奨励したい。（◎） (2) ア・会議の内容の充実に留意しつつ、CM 会議を 25 回、クラブ総会を 3 回実施した。次年度は、CM 会議、クラブ総会の内容をさらに充実させ、クラブ間の連絡やクラブが協力し合って行う取組みの一層の充実を図りたい。（○） イ・生徒保健委員会で「携帯電話の利用状況」について研究し、文化祭、学校保健委員会で発表した。また、文化祭前のエコ賞の審査や当日の校内清掃、冬季暖房期の加湿器の日常点検等年間を通して活発に活動した。（○） ウ・図書委員会を年 5 回実施した。活用内容は例年通りに留まった。（○） エ・クリーンキャンペーンは 3 学期に 2 回実施した。書き損じはがきは実施できなかった。学校教育自己診断で「生徒会活動が活発」との回答が 80%と昨年度より 4%減少し、目標は達成できなかった。（△） (3) ア・全校をあげて登校指導、校門指導を行ったが、1 クラス増の影響もあり、遅刻者数は 738 名と昨年度（688 名）よりも若干増加した。次年度は、指導の徹底と定着を図り、全校を挙げてさらなる遅刻の減少に取り組むたい。（△） イ・毎朝登校時の自転車指導、挨拶運動を実施し、教職員からの声かけや挨拶を積極的に行った結果、積極的に挨拶をする生徒の姿がより一層多くみられるようになった。次年度は、継続して声かけ、挨拶運動を行い、自転車マナー、挨拶習慣のさらなる定着を図りたい。（○） ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率は 79%（H27:81%）に留まり、目標の 83%にはわずかに届かなかったものの、日常の清掃指導にはしっかり取り組んだ。次年度は、全校をあげてさらに日常の清掃指導に取り組む、生徒に清掃習慣の確立に努めたい。（○） (4) ア・生徒については「SNS の正しい使い方」「デート DV について」等の人権 HR の折に、トラブル未然防止のためのコミュニケーション力の大切さについて学んだ。コミュニケーションに関する教職員の研修は実施できなかった。（△） イ・壁面の塗り替えを除いて、食堂の改修はほぼ終了し、利用規定の作成を行った。次年度は、生徒の交流場所の提供を中心にして、さまざまな取組みに活用していきたい。（○） (5) ア・交流相手が見つからず、今年度は実施できなかった。（△） (6) ア・PTA による登校指導を 6 回実施した。保護者に生徒の実態を知っていただくことで、家庭と連携した指導がしやすくなっている。次年度も計画的に継続して実施していきたい。（○） イ・各学年のテーマにしたがって、人権講演会を計画的に実施した。12 月には教職員・保護者合同の人権研修「性的マイノリティについて」を実施し、保護者の方も参加して下さった。学校教育自己診断の「人権を学ぶ機会」の肯定的回答は生徒については、目標の 80%にはわずかに届かなかったものの 78%と昨年度の 76%から上昇しており、保護者については 86%と目標の 80%を大きく上回ることができた。次年度も引き続き、より効果的なものにするべく検討を重ねながら実施していきたい。（○） ウ・合格者登校時より個別状況の把握に取り組み、個に合わせた合理的配慮の実施に努めた。また、学期初めに資料を作成し、校内での情報共有を図った。就学支援委員会は、定例の 6 回に加えて、生徒の状況に合わせて開催した。次年度は、学年と委員会の連携をより密にし、さらにきめ細やかな指導ができるように努めたい。（○）</p>
--	---	--	---	---

## 府立香里丘高等学校

<p>2</p> <p>より良い豊かな人間関係づくりができる学校文化の創出</p>				<p>エ・学校教育自己診断の「悩み相談」の肯定的回答は昨年度とほぼ同じの 55%に留まったものの、生徒の状況は、各学年の教育相談担当者からの報告で把握し、状況によって、担任、保護者、S C と連携した丁寧な対応に努めた。保健室への直接の相談にも丁寧に対応した。次年度は、教育相談により組織的に対応できるように、教育相談体制の見直しも含め、一層の充実に努めたい。(○)</p> <p>(7)ア・部活動が中心となって地域のイベントに参加した。吹奏楽部が「地域高齢者の集い」「老人ホーム」「成人の日の集い」「クリスマスコンサート」等地域イベントで6回演奏した。ダンス愛好会が「道頓堀清掃活動」「地域の夏祭り」に参加し、演技を披露した。軽音楽部も「道頓堀清掃活動」に参加し、演奏した。また、野球部、吹奏楽部が、定期的に地域の自主清掃活動を行った。次年度は、活動の内容をより充実させるとともに、さらに活動の場を広げていきたい。(○)</p> <p>イ・「香里カップ」3部(サッカー、ソフトボール、女子バスケットボール部)、「香里フェス」1部(吹奏楽)が実施した。昨年度同様の4部に留まった。次年度は、実施クラブの増加をめざすとともに、内容の充実を図りたい。(△)</p> <p>ウ・部活動を中心に交流を行った。(女子バスケットボール：むらの高等支援学校と交流。ソフトボール部：大阪国際大学と部活動交流。)また、近隣の中学校との部活交流を女子バスケットボール、女子バレーボール、ソフトボール、吹奏楽部で実施した。次年度も引き続き交流を深めたい。(○)</p>
<p>3</p> <p>生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上</p>	<p>(1)危機管理対応等の充実。</p> <p>(2)円滑な組織運営(スクリップ・アット・ビルト方式)。</p> <p>(3)経験の少ない教員等の育成。</p> <p>(4)ICTの有効活用。</p> <p>(5)教育環境の整備等、予算の効果的執行。</p> <p>(6)広報活動の充実。</p>	<p>(1)地震火災対応・AEDの使用について教職員・生徒への周知等の工夫。</p> <p>(2)運営委員会(プロジェクト委員会)が中心となり、必要に応じてPTや委員会を新設及び改廃し、教職員の意見を大切にしながら、円滑な組織運営を行う。その際、原則、有志参加者も募るなど教職員の参画意識を向上する。</p> <p>(3)新任から2年目までの教員対象に「香里会」で勉強会を実施する。自信を持って授業や生徒指導等に当たることができるよう進める。危機管理を含めた保護者対応。研究授業の実施、授業、部活動等先輩教員の指導に学ぶ。</p> <p>(4)情報処理委員会を中心に各部と連携して取り組む校務処理システムの有効活用をめざす。指導要録、成績処理に活用する。</p> <p>イ ICTを活用して教材等の共有化や成績処理など、日常業務の軽減を図り、教材研究をする時間を確保する。</p> <p>(5)教育環境の整備等、予算の効果的執行。</p> <p>(6)文化広報部や「香里PR隊」により中学校や地域住民に対する広報活動を充実させる。</p> <p>ア 中学生学校見学会等の充実。参加者数の確保。</p> <p>イ HPの更新を計画的に行う。</p> <p>ウ メール配信登録者に年間通じて、情報提供に努める。</p> <p>エ より計画的な中学校訪問の実施。</p>	<p>(1)防災訓練2回実施。生徒、教職員対象AED講習会の充実。学校教育自己診断90%以上。(平成27年度83%)</p> <p>(2)PTや委員会の新設改廃状況。円滑な組織運営。学校教育自己診断(学校運営)平均60%以上。(平成27年度46.8%)</p> <p>(3)香里会を年間5回以上実施。学校運営への参画意識の向上。アンケート肯定平均80%以上。(平成27年度74%)</p> <p>(4)ア 指導要録、成績処理等のICT活用の定着。</p> <p>イ 全教科でICTを活用した教材共有システムを開発し、その活用状況。成績処理のICT化等、業務軽減の状況。</p> <p>(5)節水、節電等の状況。使用量を前年比3%減。</p> <p>(6)文化広報部や「香里PR隊」による広報の状況。</p> <p>ア 学校見学会等参加者、5%増(平成27年度4回1412人)</p> <p>イ 月3回以上更新する。</p> <p>ウ メール配信登録者、70%以上。年間配信数70件以上。</p> <p>エ 年2回の中学校訪問の内容の充実。</p>	<p>(1)5月と10月に実施した防災訓練を雨天のため避難経路の確認指導で実施した。AED講習会を7月に生徒1回、教職員1回実施した。学校教育自己診断の「地震、火災等が起こった場合の行動」の肯定的回答は78%と昨年度を5%も下回った。次年度は、実施方法等をさらに工夫し、充実を図りたい。(△)</p> <p>(2)プロジェクト委員会を毎週1回開催し、学校の課題解決に向けての具体的な方策を検討した。「新入生学習オリエンテーションの改善及び事後指導」「まなびワンポイントコーナーの新設」「次年度からの1年生大学見学会の実施」「アクティブ・ラーニング研修」等の新たな取り組みの提案、実現ができた。学校教育自己診断(学校運営)平均は55.1%と目標の60%には届かなかったものの昨年度の46.8%から8.3%向上した。また、教職員の学校運営への参画意識は昨年度の21.5%から42.0%へと大幅に向上した。次年度は、教職員の参画意識をさらに高め、「チーム香里丘」として教職員一丸となって学校運営に取り組みたい。(◎)</p> <p>(3)学校教育自己診断(経験の少ない教職員の育成)の肯定回答は70%で昨年度の74%から少し下落したが、「香里会」を計画的に年6回実施をし、授業や生徒指導、保護者対応、研究授業の実施、部活動指導などについて昨年度よりも内容を充実させて先輩教員から学ぶ機会を設けた。対象教員の出席も良好であった。次年度は、授業力の向上を中心にしてさらに研修の充実を図りたい。(○)</p> <p>(4)ア・指導要録、成績処理はすべて校務処理システムへの移行が完了した。(○)</p> <p>イ・校内LANと統合ICTを活用し、教材、分掌関係の文書などの共有化を推進した。次年度は、学校情報ネットワークの更新が円滑に行われるようにするとともに、校務処理システムのさらなる活用や校内のICT関係設備の充実を通して、校務の効率化に向けてICTの活用をさらに進めたい。(○)</p> <p>(5)全校を挙げて節水、節電に取り組んだ結果、11月末現在で前年使用量比(%)が電気109.6、ガス71.3、水道89.4となっており、1クラス増を考慮すると目標を十分に達成できる見込みである。次年度は一層の節電に努め、引き続き前年度比3%減をめざしたい。(○)</p> <p>(6)ア・学校見学会・体験入学を6、11、12、1月に実施した。参加者の合計は1404名と昨年度(1412名)並みに留まり、目標は達成できなかった。(△)</p> <p>イ・平均月5回以上更新(計60回)ができており、目標を大きく上回った。次年度も、広報活動のさらなる充実を図りたい。(○)</p> <p>ウ・メール配信登録者は、1年75.8%、2年73.7%、3年49.1%、全体66.4%で、3年を除けば、目標を概ね達成することができた。配信数は89件で目標を大きく上回ることができた。次年度も、登録者数、配信数をさらに増やし、情報提供の一層の充実を図りたい。(◎)</p> <p>エ・在校生の出身中学校への訪問を、全教員で分担して、原則2回実施し、学校の説明等を行った。次年度も引き続き実施し、中学校との連携をより深めたい。(○)</p>